

地域で取り組む対策



花火などによる追い払い

音とせん光で驚かせる花火などの道具を使って追い払い、人が怖いと学習させます。

*希望する自治体に、花火の配布と購入補助を行っています。



電気柵の設置

電流を流した導線を農地の周囲に設置し、動物の侵入を防ぐとともに、危険な場所と学習させます。

*3戸以上の農業者で取り組む自治会を補助する制度があります。

本紙3ページのやぶの刈り払いや誘引物の除去と併せて対策を行っていくことが効果的です。

*地域の取り組みを補助する制度があります。



ホームページ

地域の活動を紹介

イノシシ対策に 取り組む駒込地域

駒込地域では、数年前からイノシシが出始め、農作物被害に悩まされるようになりました。地域で話し合いを重ね、地域課題に取り組む実践組織「学区のまどぐち」を立ち上げました。ドローンを活用したイノシシの生息調査や捕獲に取り組んでいます。

Q イノシシ対策に取り組むきっかけは何でしたか？

A ビレッジプラン2030*で、地域の営農や交流活動をし合う中、喫緊の問題として、「地域全体でイノシシを何とかしなければ」という話が持ち上がりました。

*ビレッジプラン2030 新潟県が推進する、持続可能な中山間地域の営農や集落機能の維持・発展に向け、各地域ごとの将来プラン(ビレッジプラン)の策定、実践を支援する取り組み。

Q 活動する上で心掛けていることは何ですか？

A 農業者だけでなく、地域の皆さんに理解してもらってこそ効果が出てくると思っています。全住民を対象とした研修会や報告会を開催し、共通の認識が持てるようにしています。

Q 今後、学区のまどぐちで取り組みたいことは何ですか？

A まず、「駒込をよくしたい!」というのが大前提です。駒込に来てくれた方や、今住んでいる皆さんが少しでも負担なく過ごせるような取り組みをしたいです。



学区のまどぐち
がわむまざき
代表 蒲澤 正樹 さん



将来プラン策定に向けた話し合い



獣害対策現地研修会



ドローンによるイノシシ生息調査

鳥獣被害対策



サル、イノシシから生活を守る

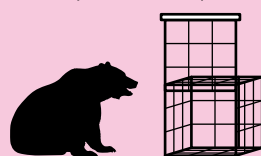
サル、イノシシによる農作物の食い荒らしや住宅への侵入なども、私たちの生活を悩ませています。鳥獣被害の対策は、個体群管理、侵入対策、生息環境管理をポイントに、総合的に取り組んでいくことが大切です。

鳥獣被害対策の3つのポイント

増やさない

個体群管理

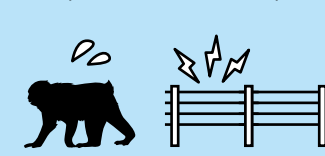
(鳥獣の捕獲)



入れさせない

侵入対策

(侵入防止、追い払い)



屋根に登るサル

自助(自ら守る)・共助(地域で行う)・公助(行政が行う)

近づけさせない

生息環境管理

(やぶの刈り払い、収穫後の野菜くず除去など)



イノシシが荒らした田んぼ

今年度の取り組み

GPS首輪を活用した サルの群れの把握

今秋導入予定
市ホームページで
お知らせしていきます

サルは単発の花火には慣れてしまいます。複数人で追いかけ、地域から締め出すことで効果が高まります。サルにGPS*首輪を装着し、群れをインターネットで把握することで、追い払い活動や農作物の収穫タイミングの調整などに活用します。

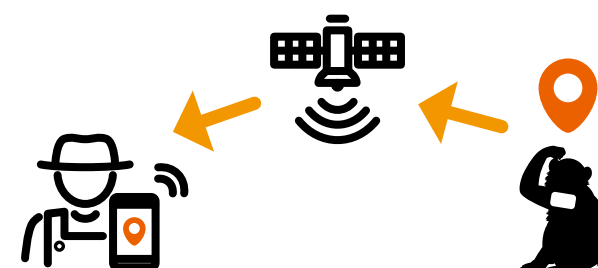
*GPS(Global Positioning System:全地球測位システム)
人工衛星を利用して地球上の正確な位置や時刻を測定するシステム



人里付近まで出没したサル



GPS首輪を着けたサル



インターネット上の公開イメージ